

琉球大学学術リポジトリ

種最大個体を伴う外来種亜種ヤエヤマイシガメの伊良部島からの初記録

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2020-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 嶋津, 信彦, Shimadzu, Nobuhiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46812



種最大個体を伴う外来種亜種ヤエヤマイシガメの伊良部島からの初記録

嶋津信彦^{1,2}¹しまづ外来魚研究所 (shimadzu1984@gmail.com)²〒905-1415 沖縄県国頭村浜 521 株式会社島嶼生物研究所

記録

種ミナミイシガメ *Mauremys mutica* (カメ目 Testudines: イシガメ科 Geoemydidae) は、夜行性の半水生カメ類であり、基亜種 *M. m. mutica* が台湾、中国南東部およびベトナム、亜種ヤエヤマイシガメ *M. m. kami* が八重山諸島の石垣島、西表島および与那国島に自然分布する (Yasukawa et al. 1996; 安川 2007). 一方、琉球列島において本種は宮古諸島や沖縄諸島などにも人為的に持ち込まれており、遅くとも 1968 年頃からその生息が確認・報告されている (太田 1995; Yasukawa et al. 1996; 千木良 2007; 藤田・笹井 2014; 嶋津 2014). 宮古諸島では、これまでに宮古島、来間島、下地島および多良間島から見つかった (饒平名ら 1998; 城間・太田 2004; 藤田・笹井 2014; 嶋津・河内 2017). しかし、宮古島と下地島のそれぞれと橋で繋がった伊良部島からの報告はまだない。今回、伊良部島における陸水生カメ類の分布調査により、著しく大型のヤエヤマイシガメが雌雄で採集されたため、分布状況と体サイズについて報告する。

2015 年 6 月 21–23 日に伊良部島 (沖縄県宮古島市) の池や水路など 22 地点で各 1 回、カニ網 (タクティクスエンジョイ社製, HJ-101, 長さ 63 cm, 幅 49 cm, 高さ 25 cm) 1 籠をいずれも日中の午後に設置して翌日午前回収した。カメ類が採集された地点では、残存個体の採集を目的として 23–24 日にカニ網 2 籠を同様に設置・回収した。各カニ網には誘引餌の冷凍サンマ 4 分の 1 個体、採集動物の溺死防止用に空気を封入した 600 ml ペットボトル 2 本を入れた。なおカニ網の使用について、沖縄県漁業調整規則で制限されているため、事前に沖縄県農林水産部水産課から許可を得た。この調査ではヤエヤマイシガメのみ採集され、他のカメ類は得られなかった。採集個体について、本種では雄成体の腹甲中央部が大きく凹む個体が多いとされることから (安川 2007), 腹甲の形状から性を判別した。採集直後に中央直背甲長 (背甲長) と中央腹甲長 (腹甲長) を、採集から 1 年 8 か月後の 2017 年 2 月 15 日に高橋・藤井 (2012) に従い背甲長, 腹甲長, 最大背甲長, 最大腹甲長, 甲幅お

よび甲高を、ノギス (モノタロウ社製, MN-300) を用いて 1 mm 単位, 電子天秤 (タニタ社製, KW-001) を用いて体重を 1 g 単位でそれぞれ計測した。背面, 腹面および頭部左側面をデジタルカメラ (オリンパス社製, TG-4) で撮影した。

調査期間中にヤエヤマイシガメは、伊良部大橋に最も近い 1 地点 (図 1; 北緯 24.811469°, 東経 125.218141°, JGD2000) から雌雄各 1 個体が採集された (ともに飼育中)。採集地点の残存個体は認められなかった。背甲長は、採集直後に雌 220, 雄 179 mm であり, 1 年 8 か月後の計測でも腹甲長とともに変化がなかった (表 1)。雌は、最大背甲長 222 mm, 体重 1,565 g であり, 著しく大きかった。雄は、左目を欠損していた。腹甲の模様は、雌では甲板ごとの暗色斑が他の甲板の斑と繋がっていたが, 雄では繋がっていなかった (図 2)。眼の後方から鼓膜にかけての黄色みを帯びた縦帯は、雌雄ともに淡かった。

今回採集された雌雄は、伊良部島からはじめて確認された陸水生カメ類である。宮古島と結ぶ伊良部大橋から最も近い地点で確認されたが、橋連結から 1 年も経たない時点であり (宮古毎日新聞, <http://www.miyakomainichi>。

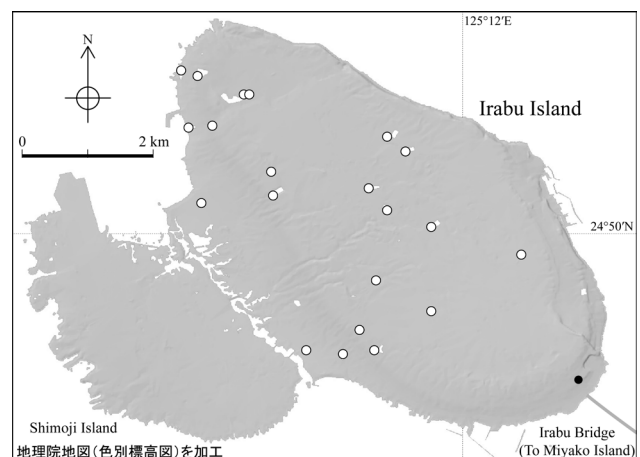


図 1. 伊良部島においてトラップを設置した 22 地点。図中に示された ● はヤエヤマイシガメが採集された場所を, ○ は採集されなかった場所を示す。

Fig. 1. A map of 22 trap points on Irabu Island. A closed circle represents the sites where Yaeyama yellow pond turtles were collected, whereas no turtles were collected from open circle sites.



図2. 伊良部島で採集されたヤエヤママイシガメの雌(左)と雄(右)それぞれの背面(上段), 腹面(中段)および頭部左側面(下段).

Fig. 2. Dorsal view (upper), ventral view (middle) and left lateral view of the heads (bottom) of the female (left) and male (right) Yaeyama yellow pond turtles collected from Irabu Island.

com/2014/07/65333/, 2017年2月15日確認), また隣接し5本の橋で繋がる下地島から近い地点では認められなかったため, 採集個体が自力で伊良部大橋を渡った可能性は低い. 腹部の模様について, 雌では基亜種で多いとされる各甲板の暗色斑が互いに繋がるという特徴が見られたが, 与那国島のヤエヤママイシガメでも同様の個体が確認されている(安川 2007; 嶋津 2017; 図2). 側頭部の黄色みを帯びた淡い縦帯はヤエヤママイシガメの特徴(安川 2007)と一致する. 採

集された雌は, これまでの雌の種最大個体(嶋津・河内 2017)より背甲長で13 mm大きく, さらに種最大個体であった雄(高橋・藤井 2012)と比べても1 mm大きく, 体重では567 g重かった. 採集された雄もヤエヤママイシガメの雄(Yasukawa et al. 1996; 高橋・藤井 2012)では最大級の大きさであった. 西表島の同亜種は, 生息密度が低い個体群では成長が速くなり, 大型化する傾向があるという(矢部 1995). 伊良部島で採集された雌雄は, 未利用の餌資源を利用して

表 1. 伊良部島から採集されたヤエヤマシガメの測定値.

Table 1. Measurements of Yaeyama yellow pond turtles collected from Irabu Island.

年月日 Date	計測 Measurement		
	計測部位 Measured characters	雌 Female	雄 Male
2015.6.22	背甲長 (mm) Midline carapace length	220	179
	腹甲長 (mm) Midline plastrum length	187	140
	2017.2.15	背甲長 (mm) Midline carapace length	220
2017.2.15	腹甲長 (mm) Midline plastrum length	187	140
	最大背甲長 (mm) Maximum carapace length	222	180
	最大腹甲長 (mm) Maximum plastrum length	204	155
	甲幅 (mm) Maximum carapace width	165	128
	甲高 (mm) Maximum shell height	80	67
	体重 (g) Body weight	1565	658

著しく大型化したと考えられる。急速に成長したとしても持ち込まれてから一定時間が経っていたと推測され、繁殖していた可能性がある。宮古島と伊良部島の固有亜種ミヤコヒキガエル *Bufo gargarizans miyakonis* は、環境省の準絶滅危惧に指定されており、宮古島では幼生がヤエヤマシガメの胃から確認されている (藤田・笹井 2014; 太田 2014)。伊良部島でも捕食による本亜種の被害が危惧されるため、引き続きヤエヤマシガメの残存個体の有無を確認する調査が必要である。

謝辞

本研究は、一般財団法人沖縄美ら島財団の助成事業として行われた。

引用文献

- 千木良芳範, 2007. 沖縄市の両生爬虫類. 沖縄市総務部総務課 (編), 沖縄市史第四巻自然編. Pp. 101–120, 沖縄市役所, 沖縄.
- 藤田喜久・笹井隆秀, 2014. 宮古島に定着したヤエヤマシガメによるミヤコサワガニの捕食. 沖縄生物学会誌, 52: 53–58.
- 饒平名里美・当山昌直・安川雄一郎・陳陽隆・高橋健・久貝勝盛, 1998. 宮古諸島における

陸棲爬虫両生類の分布について. 平良市総合博物館紀要, 5: 23–38.

太田英利, 1995. 琉球列島における爬虫・両生類の移入. 沖縄島嶼研究, (13): 63–78.

太田英利, 2014. ミヤコヒキガエル. 環境省 (編), レッドデータブック 2014, 日本の絶滅のおそれのある野生生物, 3 爬虫類・両生類. P. 145, 株式会社ぎょうせい, 東京.

嶋津信彦, 2014. 沖縄島国頭村佐手における外来種亜種ヤエヤマシガメの分布に関する報告. Fauna Ryukyuna, 8: 9–16.

嶋津信彦, 2017. 与那国島における陸生・陸水生カメ類の文献と環境省自然環境保全基礎調査からの分布記録, および 2015 年の生息実態. Fauna Ryukyuna, 37: 15–22.

嶋津信彦・河内紀浩, 2017. 外来種亜種ヤエヤマシガメの多良間島における定着及び島内分布に関する報告. Fauna Ryukyuna, 36: 13–17.

城間恒宏・太田英利, 2004. 宮古諸島における外来性の両生・爬虫類の分布と生息状況. 平良市総合博物館紀要, 9: 57–66.

高橋亮雄・藤井亮, 2012. 沖縄島中部から発見された最大背甲長 221 mm のヤエヤマシガメ. Akamata, 23: 25–28.

矢部隆, 1995. 西表産ミナミシガメに見られる個体群間における個体群構造の違いについて. 爬虫両生類学雑誌 16 (2): 70.

安川雄一郎, 2007. シガメ属その近縁属の分類と自然史, 前編. クリーパー, 39: 18–44.

Yasukawa Y., H. Ota & J.B. Iverson, 1996. Geographic variation and sexual size dimorphism in *Mauremys mutica* (Cantor, 1842) (Reptilia: Bataguridae), with description of a new subspecies from the southern Ryukyus, Japan. Zoological Science, 13: 303–317.

First record of the introduced Yaeyama yellow pond turtle, *Mauremys mutica kami*, from Irabu Island, including the largest recorded individual of the species

Nobuhiko Shimadzu^{1,2}

¹Shimadzu Alien Fishes Laboratory (shimadzu1984@gmail.com)

²Islands Wildlife Laboratory Co., Ltd., 521 Hama, Kunigami, Okinawa 905–1415, Japan

Abstract. One female and one male of the Yaeyama yellow pond turtle, *Mauremys mutica kami*, were collected from Irabu Island on 22 June 2015. This is the first record of this species on this island. The

female, with a midline carapace length of 220 mm, represents the largest individual ever recorded of this species.

投稿日 : 2018 年 3 月 12 日

受理日 : 2018 年 11 月 20 日

発行日 : 2018 年 12 月 10 日